

お互いに包み合える社会づくりを目指して

12月3日～9日は**障がい者週間**です

障がい者週間は、障がいのある方がさまざまな分野の活動に参加する意欲を高めるとともに、皆さんが障がいへの関心と理解を深めるための週間です。

区は、障がいのある方が地域で安心して暮らし続けていくための支援のひとつとして「働く意欲」を応援しています。今号では地域でいきいきと働く皆さんと、区のさまざまな障がい者支援の取り組みについて紹介します。

問合せ 障害者福祉課 ☎内線2681 FAX(3802)0819



障がいのある方の「働く意欲」を応援します

作業所スカイ(西日暮里5-2-20)

中村さんは、荒川区障害者就労支援センター「じょぶ・あらかわ」の紹介で、平成25年から軽作業等の仕事をしています。

「初めは戸惑うことがありましたが、今では慣れてきました。難しい作業をやり抜いたときは達成感があります。働くことを通して、社会とのつながりを感じられることが何よりうれしいです」と話していました。



製作・販売している



中村さん(左)と一緒に仕事をしている皆さん

パンの品出しをする野口さん

クリ夫のパン屋(西日暮里6-10-11)

野口さんは、11月1日に開店したクリナップハートフル株式会社が経営する「クリ夫のパン屋」で、焼きあがったパンの品出し等を担当しています。以前は別の部署で仕事をしていましたが、開店に伴って、異動しました。

「すべてが初めての経験だったので開店当初は不安でしたが、今は慣れて楽しく働いています。お客さんから『おいしかったからまた買いに来たよ』と言ってもらえることが一番うれしいです」と話していました。

▲店のおすすめ「塩バターパン」

2・3面 障がい者支援の取り組み・催しを紹介

▶障がい者が生きがいを実感できる社会へ

障がいのある方にとって「働く」ということは、単に日々の生活の糧を得るといっただけではなく、仕事を通して地域社会とつながり、自らがその構成員の一員となり関っていくことを意味します。そして、いわゆる「親なき後」の安定した生活を営むことのできる社会、働くことに喜びや働くことで生きがいを実感できる社会、それらを支える区民がお互いに包み合える社会づくりが重要と考えています。

10月に開催された荒川区産業功労者表彰式では、平成28年度から「障がい者雇用貢献表彰」を新設しました。これは障がい者の雇用促進・就業機会の拡大に貢献された事業者への感謝を表すもので、今年度は5つの事業者に贈呈しました。

このように区では、さまざまな角度から障がい者の就労支援を強化しています。その中心となる障害者就労支援センター「じょぶ・あらかわ」で、障がい者とその家族からの相談だけでなく、障がい者を雇用したいという企業からの相談にも応じ、地域と行政が一体となって、障がい者の就労機会の拡大に取り組んでいます。

今後とも、障がいのある方が、これまで以上に就労の機会を得ることで、労働者としての身分が保障され、自立して地域で生活しながら、幸せを実感できるあたたかい地域社会の実現に尽力して参ります。



荒川区長・特別区長会会長
にしかわ たいいちろう
西川 太一郎